



Report 3 一足早い春の訪れを感じる一日 節分草祭

毎年恒例の節分草祭が3月10日、道の駅リストア・ステーションで開催されました。

今年は例年よりも開花が早く、7カ所ある節分草自生地の公開地すべてで8分咲きとなったこの日、あいにくの天気にもかかわらず、公開期間の中で最も多くの人を訪れました。

来訪者は、節分草のガイド「花守り」から節分草の説明を聞きながら自生地を散策。白く可憐に咲く節分草を觀賞しながら「小さくてかわいい」とのぞき込んだり、カメラに収めたりしていました。

会場では、地元の自治会や団体が出店し、地元の食や特産品を販売。エコストープづくりなどの体験もあり、訪れた人は一足早い春を感じながら、楽しい休日をごしていました。



▲節分草を觀賞する多くの人

Report 4 思い出の学び舎を心に刻む 東城小学校で「校舎お別れ見学会」



▲築68年の東城小学校校舎

校舎の耐震強度不足により建て替えられる東城小学校の校舎お別れ見学会が、2月26日から28日の3日間行われ、初日には東城小学校の卒業生や地域住民など34人が見学に訪れました。

見学者は、懐かしい学び舎で行われている授業や、歴代の卒業制作などを見て回り、思い出の場所を長く記憶に留めようと写真を撮ったり、子ども時代を懐かしく振り返りながら談笑したりしていました。

桑原大輔さんは「当時のまま残っている造り付けの掃除用具入れや、廊下で雑巾がけ競争をしたことが懐かしい」と思い出に浸っていました。

Report 5 今年こそ優勝を！市民の思いを届け激励 庄原市カーブ応援隊が日南キャンプを訪問

庄原市カーブ応援隊12人が2月17日、カーブのキャンプ地である宮崎県日南市の天福球場を訪問しました。

カーブの応援を通して交流を行っている広島東洋カーブ日南協力会や山口県岩国市の広島東洋カーブ由宇協力会とともに、それぞれが持ち寄った特産品を野村謙二郎監督に手渡しました。庄原市からは、庄原焼きや庄原産のコメ、アップルパイ、どんぐりココロ豚を贈呈しました。

庄原市カーブ応援隊を代表してあいさつした高橋利彰副市長は「庄原市の特産品を食べて、今年こそ優勝を！」と庄原市民の熱い思いを野村監督に伝えました。

今年もカーブ応援隊は外野指定席40席を購入しています。ぜひ皆さんもカーブ応援隊に参加し、一緒に熱い声援を届けましょう。

カーブ応援隊への参加方法など詳しくは、☎0824-73-0919（カーブ応援隊専用）まで。



▲野村監督に庄原米を手渡す高橋副市長

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 日ごろの生涯学習活動を地元で発表 やほこふれあいフェスタ

八銚自治振興区の住民が生涯学習活動を発表する『やほこふれあいフェスタ』が3月16・17日の2日間、八銚自治振興センターで開催され、多くの人でにぎわいました。

昭和初期に撮影された地元の写真約60点を集めた写真展「昭和を訪ねて」のほか、住民が製作したプリザーブドフラワーやタペストリー、生け花などの作品50点を展示。17日には、西城市民病院の郷力和明院長による地域医療に関する講演が行われ、住民による尺八・大正琴の演奏などが披露されました。

八銚自治振興区の山口忠男会長は「生涯学習は、個人の趣味や生きがいである

ばかりでなく、住民主体の地域づくりに必要な知識や教養を身に付けるためのものでもある。地域の取り組みを皆で確認し合い、今後につなげていきたい」と話していました。



▲大正琴の演奏



▲写真展

Report 2 待望の高速道完成を祝う 松江自動車道開通記念イベント



▲サイクリングを楽しむ参加者

松江自動車道（中国横断自動車道尾道松江線）の開通まで1ヵ月を切った3月10日、口和インターチェンジ周辺で開通記念イベントが開催され、約1,800人がウォーキングやサイクリングなどを楽しみました。

当日は前日の陽気からは一転、朝から小雨が降り冷たい風が吹き付ける悪天候でしたが、完成したばかりの高速道路を通れるとあって、親子連れやロードバイク愛好者などが受付に列を作りました。

ウォーキングは高野インターチェンジ方面へ向かって約2.5キロの距離を往復するコースに約1,500人が参加。サイクリングは三次方面へ向かって三次東インターチェンジ・ジャンクションの手前約1kmのところを折り返す、往復約25kmのコースが用意され、250人

が参加しました。参加者は、真新しい道路の感触やそこから見える景色などを楽しんでいました。

会場では、主催した3市（庄原市・三次市・島根県雲南市）がそれぞれ地元の食や特産品を販売。ステージイベントも行われ、山陰・山陽を短時間で結ぶ期待の道の完成を喜びました。

ウォーキングに参加した人は「いよいよ開通するんだという実感が込み上げ、気持ちも高ぶってきた。開通後に車で通るのが本当に楽しみ」と期待を膨らませていました。

松江自動車道は3月30日、17時に全線開通しました。これにより交流人口の拡大が期待されます。



▲ウォーキングを楽しむ参加者



Report 6 琴で祝うひな祭り 比和保育所でひな祭り音楽会

園児の健やかな成長を願う「ひな祭り音楽会」が3月1日、比和保育所で開催され、園児と保護者、地域住民合わせ60人が参加しました。

当日は、庄原を中心に音楽活動を行っている潮音の会のメンバーが「うれしい ひなまつり」などを琴とピアノで合奏し、会場は一足早い春の雰囲気になりました。普段、保育所で歌っている曲目が演奏されると、園児も手拍子や歌声で音楽会に参加。きれいな音色と園児のかわいい合いの手に、皆さん笑顔がこぼれていました。

音楽会終了後、園児たちは演奏に使われた琴に實際

に触れて、音の出し方を教えてもらい琴演奏に挑戦。最初は苦労していた園児も、「弦が固いけど、いい音がする」、「また弾いてみたい」とはしゃいでいました。



▲琴の弾き方を教えてもらう園児

Report 7 元気な地域づくりをみんなで考える 第4回くちわのつどい



▲発表する石田さん

口和自治振興区、庄原市社会福祉協議会口和地域センターなどが主催する「くちわのつどい」が3月2日、口和自治振興センターで開催され、約100人が会場に訪れました。

このつどいは、みんな元気に誰もが安心して心豊かに暮らせる口和地域になるよう、今自分でできることを参加者が一緒になって考える講座です。

実践報告として、口和中学校2年の石田成美さんが「伝える心」、北自治振興区事務局長の高橋秀則さんが「心をつなぐデイホーム」、ふくふく牧場の福元紀生さん・奈津さん夫妻が「安心と夢を求めて」と題して発表。来場者は、真剣な表情で耳を傾けていました。

Report 8 日本語を通じた交流の輪が広がる 日本語学習者によるスピーチコンテスト&新年会

しょうばら国際交流協会が主催する「日本語学習者によるスピーチコンテスト&新年会」が2月10日、口和自治振興センターで開催され、庄原市をはじめ、三次市、安芸高田市、東広島市など県内各地から16人の日本語学習者が参加しました。

今年で11回目を迎えたこのコンテストは、日本語を学ぶ外国人のたちに、学習の成果を発表する場を提供することを目的に開催され、併せて参加者全員で交流する新年会も開催しています。

金賞と会場賞の二つの賞を受賞した中華人民共和国出身の楊茜（ヤンチェン）さんは、小説家の川端康成が発した言葉「美しい日本の私」と題してスピーチ。審査員から「楊さんの努力を感じるスピーチで、とても美しい日本語だった」と高く評価され、会場からも大きな拍手が送られていました。

新年会には総勢130人が集まり、それぞれが持ち寄った「一品料理」を味わいながら、にぎやかに交流を深めていました。

参加者は「アットホームな雰囲気で楽しかった。来年もまた来たい」と話していました。



▲発表者全員で記念撮影